

第2回 多度津町総合教育会議

開催日時	平成27年8月13日(木) 13:30~15:00
開催場所	多度津町役場本庁舎第一会議室
出席者	〔出席者〕 町長、教育長、教育委員長、教育委員(A,B,C) 〔意見聴取者〕 副町長、政策企画課長、政策企画課長補佐 〔事務局〕 事務局(課長、課長補佐、副主任、主事)
傍聴人	0人
備考	非公開事項:なし

発言者	発言要旨
課長	<ul style="list-style-type: none"> ・第二回 多度津町総合教育会議を開催する。 ・本会においては、教育大綱について協議する
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・教育大綱の策定に向けた意見をいただきたい。 ・町では、現在、第6次多度津町総合計画を策定中であるので、総合計画との整合性を保ちつつ、教育大綱を作っていく。
課長	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づいて説明する。 <基本方針 説明> <期間 説明> 平成27年度~平成30年度の4年間としたい。 <基本目標 説明>
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・多度津町の子ども達が、就学・就職で一時は町を離れても、いずれ帰ってきて、自分の親や自分の子ども達と一緒に住み、多度津の未来のことを一緒に考え、すばらしい未来を構築していくこと、それが、住民参画・住民共同のまちづくりの根本的なことだと考えている。 ・そういう子どもを養成するためには、多度津の優れた歴史・伝統・文化を教え、多度津に誇りと愛着を持ってもらうことが肝要である。 ・まちづくりと同様、住民や民間と一緒にあって、こういった子どもを養成していかなければならない。 ・将来どのような町にしたいのかを考えてくれる人材を育成するためには、多度津が好きでなければならぬ。多度津で生まれ、多度津で育ち、誇りと愛着を持っている子ども達を育てることが、これからの教育の根幹だと思っている。

委員 C	<ul style="list-style-type: none"> ・そのようなことをふまえながら、教育大綱の策定にお力、知恵を拝借したい。 ・大綱は、現状の方向性として『こうあるべき』ということ。精神的には町長のおっしゃるとおりである。 ・ただし、そういう方向を目指すにしても、現実的には、例えば歴史を教えるに際して、どういう教材を使ってどういうことを教えていくのか。教える方に対する教育もまだまだこれからである。どういう形で、どの時間に取り組んでいくのか、これらを踏まえたうえで、統一的なものを出さないと、なかなか難しいのではないか。 ・学校、行政、いろいろなところが集まって、将来的にこういう方向を目指そうという、協議する場所、何か共通的なものを整えないと、いざどうするかというところで分かりにくくなる。 ・『このところについては、こう強化していこう、このような取り組みをやる』ということ、大綱の中に盛り込んでいく。 ・いろんなことを大綱の中に大きく取り込んで、ここで決めるというよりも方向づけをしていく。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・教育には生涯学習やスポーツもあるので、大綱は様々な分野で決めていかなければならない。 ・多度津は歴史・伝統・文化だけの町ではないので、それだけで大綱を決めるわけではない。偏ったものではなく、総合的な教育大綱を作っていく。 ・多度津は何が魅力なのか、何が誇れるのかということを考えていただきながら、多度津の教育大綱を作っていきたい。 ・まずは、教育行政を含めて、行政と民間とが共同でやること。行政だけでは町は元気にならないし、経済も活性化しない、民間の活力やノウハウを大いに活かす。 ・子どもに多度津の歴史を教え、誇りと愛着を持ってもらうことは、学校の教師だけでは難しい。多度津のことをよく知っている方がいらっしゃるので、そういう方に講師を依頼することが必要。 ・副読本も作らなければならない。
副町長	<ul style="list-style-type: none"> ・教育大綱は、教育委員会が担うべき分野の今後の方向性である。 ・方向性としては、『教育をどうするか』とか、『思いやりのある心を育てる』等の健全育成をすとか、『学力をつけさせる』とか、そういうものがある。 ・その実現のために、環境をつくらなければならない。エアコン、耐震化、先生の教育などもしなければならないし、いろんなことを支援するための環境整備も教育委員会がしなければならない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・このような学校現場の話以外に、スポーツや芸術・文化などの生涯学習の分野がある。大きく3つくらいの分野があるので、それらをどうするかという目標があって、そのうちの教育のなかに、歴史などの話がある。これは、教育の目標を達成するための一つの方向性でしかない。 ・これまで会議で話されていること、たとえば『副読本を作る』などは、具体策である。これは、教育大綱を決めた後、毎年の施策のなかで話し合っ
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・多度津町の教育に関する大局的なこと、広分野にわたることを考えていかなければならない。
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・小学校のハード面つまり施設・設備について、以前から気になっている。 ・幼稚園は、どの施設も老朽化しており、また、人数が減少している園もある。 ・小学校も、雨漏りなどの老朽化が進んでいる。 ・今後、どうなっていくのか、という懸念がある。 ・町の財政を考えれば、これらハード面を節約し、代わりにソフト面を充実させて、お金をかけてでも外に誇れる多度津の教育が出来れば良いのに、という思いがある。 ・そういうことを大綱に盛り込むというのは、話の筋にあっているのか。
副町長	<ul style="list-style-type: none"> ・それは、『環境整備を進める』というなかでの方法論である。 ・たとえば、『適正な学校規模の検討を進める』という方針があるとして、そのなかで、毎年の施策として議論することである。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・私のマニフェストで『子ども達の教育環境を充実する』ことを掲げている。この中には、学校施設の耐震化やエアコンの設置、適正な学校規模などの事柄が、一つ一つ箇条書きで書かれている。 ・大きな括りは『子どもの教育環境の充実』であり、そういったものは、教育大綱の中にいれなければならないと思う。 ・そのためにどういうことをするのかという議論のなかで、教育委員 B がおっしゃったようなこと、つまり小学校の建て替えの必要性や幼稚園等の統廃合は、皆さんに議論していただき、答えを出していく。 ・幼稚園は全て公立で、保育園は全て民営である。行政としては、民業圧迫は出来ない。そのなかで、幼稚園をどういうふうにしていくのか。幼稚園と保育園を一緒にやっていく認定こども園の制度にどう取り組んでいくのか、幼稚園は幼稚園でやっていくのか、統廃合をするのか、そういうこ

	<p>とも、『子ども達の教育環境を充実する』ことの一つの項目として話をしていただけだと思っている。</p>
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業を誘致して、若い人が就職して、結婚してくれて、若いお母さんが子どもを生むけれども、幼稚園がみてくれないということがある。待機児童の話もある。 ・ 今はもうほとんどが共稼ぎなので、子どもを午後 5 時、6 時くらいまでみてくれるような幼稚園をつくっていかなければならない。民営化するのか、行政がやるのか、いろいろ方法はあるだろうが、そういう幼稚園を目指して作っていくのは一つの方法で、大事なことだと思う。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな待機児童を発生させないという取り組みは、全国的に行われている。 ・ 待機児童は、保育所・幼稚園だけでなく、児童館でも問題となる。
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童館も時間の制限や夏休みのこともあって、お母さん達は大変だと思う。そこをどうクリアしていくか。安心して、幼稚園なり保育所なりに預けていられるような雰囲気を作ることが必要。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連する話でいうと、中学校の新築、小学校の改修などはある程度目処がついてきた。財政的なことも考えていかなければならないが、これからは子育て支援の充実を前面に出して町の施策としていこうとしている。 ・ 第 3 子の算定基準に関することの優遇など、子育て支援を前面に出していく。
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定こども園は香川県でもできているのか。行政がやっているのか。 ・ 幼稚園を私立にすることは出来ないのか。民で出来ることは民に任せるのが私の考えである。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定こども園は香川県内でも出来ている。公立がほとんどである。 ・ 公立の幼稚園が保育所の機能を持つことは民業圧迫になる。私立の保育園で、幼稚園の機能をもってもらおうということしかできない。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い人たちが来てくれないと、人口増加にはならない。 ・ 今の社会的現状で、雇用の増加は、無理ではないだろうが、難しいという現実がある。 ・ まず今できることは、心も頭も身体も、全ての面で重要な時期である幼児期について、有意義な過ごし方をさせることである。 ・ 幼児期に心も身体も整えてあげることで、多度津のすばらしさを理解できる子が出来ると思う。

町長	<ul style="list-style-type: none"> ・いきなり、今の子に、多度津の偉人伝や歴史を教えても、頭の中を素通りしてしまう。 ・幼児期の教育の大切さを考えたうえで、統廃合なり認定こども園なりの手段が、子どもにとって良いことなのか悪いことなのか考えてほしい。 ・子どもを中心に考えて大綱の策定をしてほしい。 ・民業圧迫かもしれないし、今は無駄なお金かもしれないが、今の幼児期の子ども達、お母さんたちを教育することが、十何年先に大人になった時に、多度津の町は良い町であったと実感できるような、教育大綱にして欲しい。 ・もったもである。 ・ただし、ベースとして多度津町には公立幼稚園と、私立保育所があることは変わらない。公立幼稚園が保育所の機能も果たそうとすれば民間から反発を受ける。それが、子ども達の保育に影響を及ぼすかもしれない。 ・たとえば、民間の考え方として、『一生懸命、多度津の子ども達のことを考えてやっているのに、行政がそんなことをするならば、勝手にしたら良い』などとなる可能性がある。すると結果として、子どもにとってマイナスになってしまう。ベストなやり方を模索していかなければならない。そのような点も理解してほしい。
課長	<ul style="list-style-type: none"> ・健全育成であったり、学校関係の教育環境整備であったり、スポーツを含めた生涯学習であったり、そういった大きいものがあって、その下に方法論がある。 ・これまでの会議では、具体的な方法論についての話が中心となっている。大綱についての議論となっていない。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・基本目標として資料中の4つがあるのではないか。
課長	<ul style="list-style-type: none"> ・この目標は確かに具体的ではないが、もう少し大枠での方向性が大綱になってくる。 ・統廃合や認定こども園は、具体的な話である。具体的な話は町としての施策となるので、もう少し大枠について話をしていただきたい。 ・方法論が大きくなってしまっている。
副町長	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に記載されている基本目標は、方向性であって、目標とはならないと思う。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・戦前は、社会・国を優先して個が疎かになった。戦後になって、一人ひとりを大事にして、個に着目した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・その考え方は重要ではあったが、地域・家族・国などにもっと目を向ける必要があったのではないかと、という一つの反省がある。 ・もう一つは、社会も、家族や地域の豊かさではなく、個の豊かさを追求するようになったことである。親も、自分の子どもさえ良かったらという考え方で、自分の子どもが社会に役立つ人間になって欲しいという思いは、前に比べれば薄くなってきている。個別化が進み、個に着目しすぎて、社会のことを考えて、社会に役立つ人間を作らなければならないという志向が欠けているような感じである。そのことが、町長がお考えの『ふるさと』ということの根本にあるような気がする。 ・教育全体で、社会のことを勉強したり、社会のこと全体を考えたりするようにしていかなければならない。たとえば多度津中学校の生徒であれば、多度津町民の一員であるという意識を植え付けなければいけないと思うし、それは、いろいろな活動を通して実現出来ると思う。ただ単に歴史の学習だけではなく、社会のことを考えていけるような子どもを育むためにいろいろな手立てを講じていかなければいけないのではないかと。それが今の大きな課題である。 ・『自分さえ良ければ』という考え方を払拭するために、小さなうちから社会など異質なものと触れ合わせたり、おじいちゃんおばあちゃんと触れ合わせたりすることで、育っていくのではないかと思う。 ・一人ひとりの能力を伸ばすのも大事であるが、一方では社会のなかで生活していけるような、もっといえば貢献できるような子どもを作っていく。大人も自分のことだけでなくコミュニティについて考えたり、多度津について考えたりしなければいけないと思う。 ・大綱には、このようなことが考慮された大きなテーマがあっても良いのではないかと。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長の意見は、今欠けていることだから、大事なことである。 ・子どもの基本は家庭教育。家庭教育を充実しなければならない。そうすると、親の教育もここに関係してくる。全部繋がっている。 ・昔は、子どもを教育する、子どもを教え育むというのは、教育現場・家庭・地域の連携で行われていたが、今は全部が駄目になってしまっている。原点に戻り、連携できるようにする。 ・子どもは家庭で育つ。家庭の影響はとても大きい。
委員 C	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場へ行くと、学校の先生が想像以上に大変であることを感じる。 ・本来、教育にかけるための時間が、色々な報告の作成、指導などで奪われている。 ・教師の環境についても、教育委員会としてもフォローアップをしていく等が必要かと思う。

町長	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の親の教育は、教育委員会ではできない。では、どこがやっていくのか。最近、企業が従業員（子どもを持つ親）に対する教育をしていこう、という方向性がある。 ・そういう動きも取り入れながら、現状を良くしていかないと、学校現場に余裕が生まれない。余裕が無いから、上手く育てられていない。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生は、色々なことをしなければならず、大変である。 ・教師の環境、勉強を教える環境を充実させるということは、大事である。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・熟年の教師が減ってきて、若い先生ばかりになってくる。先生にも、人格というか、子どもの親に何か言われたときに、ちゃんと答えられるだけの色々な勉強をしていることが求められる。 ・子ども達のためという思いで教職につかれている方ばかりだと思うが、ゆとり教育を受けた世代であったり、核家族で育ったりしたために、人生経験が少ない先生にとってはすごく大変。 ・先生の指導ということも、大事なことである。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど私が言ったことは、個人を大事にするということを軽視しているわけではなくて、両方とが相並び立たないといけない。教育というのはバランスみたいところがあって、個人のいろいろな力を伸ばしてあげなければならぬし、社会のことを考えるようにもしなければならぬ。バランスよく育てていくことが大事なのではないか。この二つの核は大事にしなければならぬ。 ・それと同時に、出来ることであれば、子どもを測るものさしが多様にあって、いろいろな子どもの良さを認めてあげられるほうが、息苦しくなくて良いのだと思う。たとえば、スポーツが得意な子はスポーツ、勉強が得意な子は勉強、理科が得意な子は理科を伸ばしてあげる、そういう多様なものさしがある社会のほうが良い。 ・社会の一定のルールを守りながら、それぞれの個性も引き出していかねばならぬ。そういう学校が出来れば良い。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・それは独自性ということではないか。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのような独自性を、他の子が社会性をもって認めていけるということ。 ・たとえば『あいつは数学ばかりして』とか、そういう社会ではいけない。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・今、日本の教育そのものが、そのようになっている。 ・ゆとり教育も一緒に、子どもの独自性を伸ばしていくことに重点がおかれた。その結果、あまりにも教育時間を短くしてしまい、学力が落ち込んだ

<p>教育長</p>	<p>ので、文科省が廃止してしまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そういうことも考えておかなければならない。大綱の中に入れておかななくてはならないと思う。 ・資料にある基本目標のなかに、多度津町の「もの」「ひと」「こと」を大切に、とある。そういう方向性は、必要だと思う。 ・また、幼・小・中がバラバラでやっているのでは多度津町の教育はできないと思うので、それぞれが連携した支援が必要である。 ・学校だけで物事を考えていくのではなくて、地域の住民とか保護者の方の協力を得ながら、垣根の低い学校を作っていかなければならないと思う。 ・学業とスポーツということでは、子どもの特性を引き出すような教育をして、子どもに希望を持たせる、チャレンジさせていく、そのことも基本的に大事であるという気がする。
<p>課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、資料に記載している内容は、どちらかというと、方向性なり方法論が多く、また、歴史部分が多くなっているので、もう少し、皆さんから今日いただいた意見を入れながら、また全然変わったものになるか分からないが、次回、教育の環境であるとか、先生の世界であるとか、生涯学習・スポーツであるとか、このあたりを含めて、もう少し幅広いなかで、明示していきたい。
<p>町長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長の意見のなかにあった、コミュニティの中の教育も入れて欲しい。
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方が、自分の子どもを是非多度津町の小学校・中学校に通わせて、勉強させたい、というようなことを言ってくれるようになって欲しい。
<p>町長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それがベストである。 ・多度津の子で、多度津中学校へ行かない子もいる。多度津中学校の環境をよりよくしたい。先生方は一生懸命やってくれている。
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会のなかでも、問題点というのは審議して、そのことについては学校に話をしたり、実際に視察に行ってもらったりして、一緒に考えていかなければならないと思っている。
<p>町長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事とは、いじめ、不登校、万引きなど様々あるが、学校現場はそれを隠したがる傾向がある。そういったことは、全部表にださなければならない。 ・また、問題が起きて、こう対応しておしまいではなくて、どうしてこういうことが起こったのか、原因を追究し、二度と起こらないようにしなければ

	<p>ばならない。対処療法的ではなく、根本的に直さなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会制度の改革で、教育現場に首長が入っていくのだから、そういう体制を整えないといけない。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動は、学校内部で仕舞いできることもある。 ・いじめについて言えば、客観的にみていじめではないのではないかと、思われるものであっても、被害者がいじめと認めていけば、それがいじめ事案として報告されるようにはなっている。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会制度の改革というのは、今まで教育長を中心とする教育現場でやっていたが、不祥事がおさまらず、隠蔽的なところもあるので、市・町の全体の責任を持つ首長が、教育に関しても全責任を負うようにとの達しであると考えている。
課長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の会議の議論が、目標になのか、方向性になのか、方法論になのか、吟味させていただく。 ・今回提案したものとは違う、まったく新しいものになるかと思うが、次回、改めて提示させていただきたい。
委員 C	<ul style="list-style-type: none"> ・大綱を、いつごろ出すといった考えはあるのか。
課長	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度中に策定する。1月頃を目処とする。
課長	<ul style="list-style-type: none"> ・国などから時期の提示はない。
副町長	<ul style="list-style-type: none"> ・本当は、大綱をもとに『来年度こういう事業をします』『こういう新規事業をします』というのが一番良い。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・教育大綱ができたなら、教育委員の皆さんが『今年はこちらをしましょう』『来年はこちらをやりましょう』と決めていく。その中で予算付けをどうしていくか、というのが教育行政である。
課長	<ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ早く、素案を示したい。 ・以上で、第二回 多度津町総合教育会議を終了する。